

■ ■ 創立50周年を迎えた芦別慈恵園で記念イベントが行われる



2月1日、創立50周年を迎えた芦別慈恵園で、かき氷の早食い競争や同園職員による歌と踊りの披露、祝い餅まきなどのイベントが行われ、集まった地域住民など約50人が、楽しいひと時を過ごしました。

夕暮れから夜にかけては、今年で10回目となる「雪灯りを歩く会」が行われ、参加した家族連れなど約

200人余りがペットボトルのカンテラを手に、同園から道の駅と「かざぐるま」まで二つのコースに分かれて往復。

終了後は、手作りの豚汁やおにぎり、甘酒、ホットココアなどが振舞われ、参加した皆さんは、冷えた体を温めながら、冬の夜を楽しんでいました。

■ ■ 雪と触れ合い冬を楽しむ「第9回あしべつ雪まつり2020」開催

2月1日と2日の両日、「第9回あしべつ雪まつり2020」が道の駅スタープラザ芦別で開催されました。

1日は「雪灯りを歩く会」と同時開催で、会場内の各所にスノーキャンドルが灯され、幻想的な雰囲気を醸し出していました。

2日は好天に恵まれ、大勢の子ど

もたちが、巨大すべり台のチューブ滑りを楽しんだり、アイスクリーム作りやクイズに挑戦。

また、会場では露店ブースで自慢のグルメが販売されたほか、炭火で焼肉を楽しむ「極寒焼肉」コーナーも設けられ、終日多くの人で賑わいました。



■ ■ タイムを競い滑走 芦別市民スキー大会開催される



2月9日、国設芦別スキー場で芦別市の主催により「第54回芦別市民スキー大会」が開催され、幼児から小中高生、高齢者まで33人が参加し、大回転でタイムを競いました。

当日は、厳しい寒さとなりましたが、風もなく青空が広がる絶好のコンディションの中、リトルから壮年

までの22組に分かれ、組ごとに一人ひとり順番に全長約800メートルのコースを滑走。

幼児や小学生が、小さな体で巧みにスキーを操りゴールする姿に、保護者やスキー連盟の関係者から「よく頑張った」と温かい拍手が送られていました。

■ ■ 目を輝かせ心行くまで楽しんだ 児童センターまつり

2月15日、子どもセンターつばさで児童センターまつりが開催され、子ども43人と保護者やスタッフ合わせて約90人が集いました。

会場内には射的やフィッシング、ストラックアウト、くじなど、さまざまなコーナーが設けられたほか、フリーマーケットも開催され、子ど

もたちは、母親クラブや民生児童委員協議会、青年会議所の皆さんの協力のもと、各コーナーを駆け巡り、目を輝かせて遊びを体験。

最後に行われたビンゴゲームでは、全員に景品が行き渡るなど、子どもたちはそれぞれ、心行くまで楽しい時間を過ごしていました。

